

## 研究に関する情報公開

<人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針>に基づき、研究の実施について情報を公開します。

★本研究に関するご質問等がありましたら下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。

★ご希望があれば、他の研究対象者<sup>※</sup>の方の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧いただくことができます。

★試料・情報が当該研究に用いられることについて、研究対象者若しくは研究対象者の代理人の方にご了承いただけない場合には試料・情報を使用いたしませんので、その際は下記の<お問い合わせ窓口>までご連絡ください。その場合でも、研究対象者の方に不利益が生じることはありません。

<b>&lt;研究課題名&gt;</b> 混合型肝臓の腫瘍内組織成分の異質性、発生、進展に関する分子病理学的研究
<b>&lt;研究機関・研究責任者名&gt;</b> 日本大学医学部附属板橋病院 病理診断科 (研究責任者) 大荷 澄江
<b>&lt;研究期間&gt;</b> 承認日 ~ 令和8(西暦 2026)年3月31日
<b>&lt;対象となる方&gt;</b> 1998年以降から2023年7月31日までに肝臓(特に混合型肝臓)の手術をされた方
<b>&lt;研究の目的&gt;</b> 肝臓癌の中には一つの腫瘍の中に別の2個の組織像を持つ腫瘍があります。肝細胞癌と肝内胆管癌の成分の2つの成分を有している腫瘍で混合型肝臓癌といいます。その発生については様々な説があり、2個が同時に発生したのか、一つの細胞成分がもう一つの細胞成分に変化したのか、などが言われていますが、まだ研究については発展途上にあります。分子病理学的解析により、混合型肝臓癌症例、およびそれに関連する肝臓癌症例を用いて、混合型肝臓癌の肝細胞癌成分ならびに肝内胆管成分の特徴を調べ、その違いを検証し、腫瘍内の異質性、発生活源ならびに進展について研究します。 この結果からは遺伝子変異を標的とした普遍的に有効な分子標的治療薬開発に向けた個別化医療を進めるきっかけになりうる可能性があります。
<b>&lt;研究の方法&gt;</b> 手術で切除した肝臓癌症例で、病理診断で使用されたホルマリン固定パラフィン包埋(FFPE)された、残余検体を使用し、混合型肝臓癌症例およびそれに関連する肝臓癌症例の未染標本を用いて研究を行います。研究実施研究の場所は病理学遺伝子実験室ならびに病理学分野研究室です。
<b>&lt;研究に用いる試料・情報の項目&gt;</b> 手術で切除した肝臓癌の病理診断で使用された残余検体であるホルマリン固定パラフィン包埋(FFPE)検体を使用します。また、電子カルテ上の肝炎ウイルス感染の有無、年齢ならびに性別などを参照し、背景因子を検索します。

<お問い合わせ窓口>

日本大学医学部附属板橋病院（東京都板橋区大谷口上町 30-1）

病理診断科

氏名：大荷 澄江

電話：03-3972-8111 内線：(医局) 2256 (PHS) 8386

※研究対象者とは、以下に該当する方（死者を含む。）を指します。

①研究を実施される方

②研究に用いられることとなる既存試料・情報を取得された方